

自動車生産・販売増、住宅着工は微増

橋本金属・アルミ 橋本健一郎氏リポート①



橋本健一郎氏
四月前半は、三月の中国貿易収支は二三九億ドルの黒字。予想は一〇〇億ドルの黒字。輸出は前年同月比二六%増。

四月後半は、三月の中国貿易収支は二〇・三%増。予想は一八%増だった事、三月のADP民間雇用者数は二六・三万人増加、予想の一八・五万人増を上回ったことなどのプラス材料もあたが、ペルー最大の銅鉱山、セロベルデでのストが終結したこと、すでに操業を再開しているチリのエスコニティダ鉱山、さらにインドネシアのグラスベルグ鉱山についても、インドネシアのジョンズ鉱物資源相が三十日にブリーポートインドネシアの銅精鉱の一時的な輸出再開に向けて合意に近づいていること、米中会談中に米がシリアにトマホーク六〇発を発射した事、また、それを中国が黙認した事を嫌気しLME銅相場はDOWN、四月十五日時点で五、六五五(七ツル)と月初価格より一九四ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は、フランス大統領選の第一回投票で、独立系中道候補のマクロ・元経済産業デジタル相がトップに立ったことで、英國に続きフランスが欧州連合(EU)を離脱する可能性がひとまず低下したと、四月のエコ圏景況指数は一〇九・六に上昇。予想は一〇八・一と一〇〇七年八月以来の高水準になるなどのプラス材料もあたが、LME銅在庫の急増が嫌気され売り拡大。在庫は三五一、二五〇トン増の二八万四、九二五トン。その多くが中国からアジアのLME倉庫に出荷されたと、中国の貿易統計結果が予想を下回ったこと、中国の四月の銅輸入が前月比三〇%減の三〇万トン、一~四月の累計輸入量は前年同期比二二・九%減の一四五万トンとなつたことを嫌気しLME銅相場はDOWN、五月十日現在、後半スタート価格から一二四ドルDOWNの五、四九六ドル。銅建値六七万円のスタート。

◆月間のドル／円レート (TT\$)

一二・三五→一二・五〇(円)。

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比四・七%増の九三三万台、一二七万台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数は前年比五・四%増の二二万台

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数

銅スクラップは輸出、輸入ともに増加

は前年比〇・二%増の七万五、八八七戸であつた。

◆貿易関連指標

輸出

輸入は電気銅が前年比三〇・一%減の一、五〇二七、スクラップ一〇・一%増の一万〇、七四一t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比八・二%増の七万四、〇四〇t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比二・一%増の六万二、四〇〇tであった。

■概況

【自動車生産】

三月の四輪車生産台数は九三万台、一三七台で、前年同月比四・七%増となり六カ月連続前年同月を上回った。

輸出は四一万九、五四六台で前年同月比三・八%の増加。

【自動車販売】

四月の国内自動車販売台数(軽は除く)は二二万四、一二〇台で、前年比五・四%増。九カ月連続プラス。このうち、乗用車六・一%増、貨物・五%増、バス六・九%増。

【住宅着工数】

平成二九年三月の住宅着工戸数は七万五、八八七戸で、前年同月比で〇・二%増となつた。また、季節調整済年率換算値では九八・四万戸(前月比四・七%増)となつた。住宅着工の動向については、前年同月比で先月の減少から再びの増加となつており、利用関係別にみると、前年同月比で貸家は増持家、分譲住宅は減となつた。

引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

(持家)

前年同月比では先月の増加から再びの減少(前年同月比三・六%減、季節調整値の前月比では二・四%減)。

(貸家)

前年同月比では一七カ月連続の増加(前年同月比一・〇%増、季節調整値の前月比では二・五%増)。

(六面へ続く)

(昭和33年5月10日)
(第三種郵便物認可)

今月の焦点は中国の経済、環境問題など

(四面より続く)

・分譲住宅

前年同月比では二カ月連続の減少(前年同月比一〇・八%減、季節調整値の前年比では一七・七%増)。

・分譲マンション

前年同月比では二カ月連続の減少(前年同月比二四・三%減)。

・分譲一戸建住宅

前年同月比では一七カ月連続の増加(前年同月比三・四%増)。

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比八・二%増の七万四、〇四〇tと、八カ月連続増加。平成二十二年十月の七万四、〇七九トンに次ぐ高水準の生産となつた。このうち、内需が六万〇、八一五tで六・二%増と八カ月連続プラス、輸出が一万三、二二五tで一八・四%増と五カ月連続プラス。品種別では、銅条が二万三、八九三tで一五・四%増と、一一カ月連続プラス、黄銅棒が一万七、三六六tで二・八%増と、一カ月連続プラス。

【電線】

前年比二・一%増の六万二、四〇〇t。このうち、国内が二%増、輸出が五・七%増。出荷部門別では、通信五六・九%増、電力五・〇%減、電気機械一・七%増、自動車一・六%増、建設・電販一・〇%減、その他内需二・三%増。

【輸出】

電気銅輸出が九・九%減の四万九、七五〇t。銅スクラップは一五・九%増の二万八、八八一t。

【輸入】

電気銅が三〇・一%減の一、五〇二t。スクラップは一〇・一%増の一万〇、七四一t。

【見通し】

・自動車は生産が四・七%増。国内販売台数が前年比五・四%増。生産が六カ月連続プラス、販売も九カ月連続プラス。生産、販売共に増加しており今後の動向に注目。

・住宅着工の動向については、前年同月比で微増となつており、下げ止まり傾向かどうか、今後の動向に注目。

・伸銅品は八カ月連続プラスの前年比八・二%増。需要の多い銅条が一一カ月連続プラス、黄銅棒も一一カ月連続プラス。輸出五カ月連続プラス。今後の回復に期待。

・電線は前年比二・一%増の六万二、四〇〇t。輸出が五・七%増と回復。需要の多い自動車、建設・電販がそれぞれ一・六%増、一・〇%減。全体として回復傾向か地金は減少。スクランプはメーカーの買い控え傾向から増加。

・銅輸入はここ最近の下落傾向から、スクランプが増加

【スクランプ需給予想】

流通在庫は少ないながらもGW休暇要因で、すでにできつており市中玉は少ないのではないか?

需要面に関しては、住宅で底入れ?自動車の生産・販売は好調であるが、LME在庫の急増や地政学リスクの先行き不透明感から、需給は緩むのではないか?

【価格・為替予想】

今月は韓国大統領の対北朝鮮政策と中国经济、環境問題の動向に左右される。自動車の生産・販売は好調であるが、LME在庫の急増や地政学リスクの先行き不透明感から、需給は緩むのではないか?

これが米国を中心とした国際社会の強硬姿勢と違いがあるのか?現状のままなのか?

中国经济、環境問題に関しては、鉄、銅、アルミなどでこれまでにない環境規制が敷かれ、生産活動に弊害がでている。この厳しい取り締まりが今後も続くのかどうかに注目。

それらを踏まえた五月の銅価格は、韓国大統領の文氏が対北朝鮮政策において、今まで通りの米国を中心としたスタンスを支持し、中国の環境規制が多少緩み、企業活動がこれまでとは違ひ今までも動き出した場合、四月高値の五、九〇〇ドルを予測。いずれかの場合五、七〇〇ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかつた場合、四月一段安値の五、五〇〇ドル。為替は、地政学リスクと、米トランプ大統領の通商政策の進展と為替への言及次第。それが場合は五、七〇〇ドル。

それらを踏まえ予測は、北朝鮮問題が再び緊張し、米国の経済政策が進展しなかつた場合、高値は四月後半高値一段高の一〇九円台(TTM)を予測。いずれも行われなかつた場合、同安値の一、三円台を予測。

銅建値に関しては六四〇・七一〇円程度と予測している。